

（一）田二条通 れんじょうど

北山天香集

三条通

12 四宮地藏(德)



現在の「旧三条通」は平安時代以降、都と北陸や関東方面とを結ぶ日本の大動脈として栄えた「東海道」です。人々の往来も多く、現在の山科区域にあたる追分から日ノ岡は、まさに都の東の出入り口でした。昭和初期には、その道筋に沿って京津国道が造設され、現在は三条通として、大津と京都を結ぶ幹線道路となっています。

おもしろ! マンホールの競争

平安時代の一五七年に後白河天皇が、都の守護、往来の安全を祈つて平清盛・西光法師に命じて分置した地蔵の一つです。小野篁作と伝えられ、百年ごとに「お化粧直し」をするそうです。街道を行き交った飛脚や旅人の休憩所としても使われ江戸時代の茶釜や牛馬用の水汲み井戸が残っています。徳林庵は、室町時代に南禅寺の雲英禪師が隠居所として建立した寺で、江戸中期からこの地蔵堂を守っています。

14
人康親王山莊跡



明正天皇ゆかりの古い時代の人形
が残されています。
人康親王
所蔵、琵琶を弾く
像などが
安置され
ています

14 人康親王山莊跡

東海道沿いの石の鳥居を北へ行くと、諸羽神社境内に「人康親王山莊跡」の石碑が建立されています。一八歳で眼を悪い、剃髪し法名を「法性」と名乗つて山科に御所を造営しましました。親王は深く仏道に帰依きえし、八七年四二歳で亡くなつたといいます。

16 志賀直哉旧居跡碑

三条通から緩やかに蛇行する四ノ宮川沿いを南下すると、「山科の記憶」と彫られた志賀直哉旧居跡の碑があります。文学者・志賀直哉は一九一三（大正二）年一〇月から一九一五（大正四）年四月の間この付近に住みました。石碑には「美しい山科の自然に囲まれた静かな住まいであった」と記されています。飲料水をもらいに行つたと伝わる川向こうのお宅に、その井戸が現存しています。この住居を紹介したのは、後の鐘紡山科工場長明石国助だったそうです。

京都初のゴルフ場とゴルフ道
わもしろ!



大手酒造会社にも卸していたというお酒は「福俵」や「鶴の聲」という銘柄で売られていきました。写真はそのラベル。(海老名家所蔵)

ていました。酒造りには良い水が欠かせませんが、山科の地下水や毘沙門堂付近の山水などから良質のお酒を醸造していたようです。当時は高くて美しい煙突が遠くからでもよく見えました。一九一五年(大正十四年)に京都市電の拡張工事に伴い京都の町中からこの地へ移転し、その後五七年間、清酒を醸造、販売していました。現在、工場跡は駐車場になり、醸造者の家屋が残っています。

18
本願寺両別院道標

JR山科駅前、京阪電車踏切の北東側に立つ道標で、北面には「本願寺山科西別院是よりひだりへ六丁」、西面は「明治四一年十一月建之」と彫られています。記載と立地が合わないので、元あった場所から「」へ移転されたものと思われます、「六」や方角を示す矢印からすると、旧三条通と醍醐街道の交差点付近にあつたものと推定されます。が、詳しいことは判明していません。

卷之三



春には桜が満開になります。

昭和時代には、安朱南屋敷町に山科で唯一の酒造会社があり、「福俵」と「鶴の聲」という銘酒が醸造され

13
十禪寺

地蔵堂西側の道を北へ突き当る
と十禅寺です。「四宮河原觀音堂」と
もいい、平安時代の八五九年に、人康
親王しんのうが開いたとされます。江戸時代
の平家琵琶や、女帝明正天皇ゆかり
あじょうのち

15 諸羽神社



東海道沿いの石柱。四ノ宮には珍しい石が多くあります。

平安時代の八六一年、清和天皇の時代に社殿が造営され、祭神は天兒屋根尊と天太玉尊という、両羽大明神を祀っていました。二柱の神が降臨したという裏山は両山と称されていましたが、室町時代の後柏原天皇によって、さらに八幡宮 伊弉諾尊、素戔鳴尊、若宮八幡宮を加えた六柱が祀られ、「両羽」は「諸羽」と改称されました。幾度か兵火で焼けましたが、その都度再建されています。「四ノ宮」とも呼ばれ、四ノ宮、安朱、竹鼻地域の産土神として親しまれています。